令和６年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　第１学年　　学校番号０９　北町中学校

	課題分析	授業改善策
国語	書くことや話すことに苦手意識のある生徒がいる。自分の考えや意見を言葉や文章で適切に表現するための能力を高めていくことが求められる。	授業内での対話を積極的に行い、表現力を高めていく。文章の書き方や構成の力を養うため、文章による表現やスピーチ原稿等を作成する授業を多く取り入れていきたい。
社会	板書を見て写すなど、動作が多くなると作業能力が落ちるので、指示を明瞭にして追いつけるようにすることが必要である。	電子黒板に文字を羅列するのではなく、板書を活用し生徒が自分のペースで追いつけるようにする。また、プリントと同じ書式で板書を行うようにする。
数学	知識・技能の観点における定着度に個人差が見られる。小学校の基本的な内容(分数や小数の計算)に不安がある生徒が散見され、対策が必要である。思考・判断・表現の観点においても粘り強く考えていく姿勢に課題を感じる。	技能を定着させていくためにも学習内容をスモールステップ化して進める。定期的に演習時間を設け、定着を図る。定着度を確認する小テストを行い、生徒に応じて適切な対策を考えながら進めていく。また、授業内での学習やレポート課題などを通して、思考力・判断力・表現力を育成していく。
理科	基本的な知識や理解する力、実験・観察の技能の習得状況は生徒それぞれであり、差が非常に大きい。また、自然科学的事象に対する興味関心は高いが、系統的に結びつけて考察する力がない生徒が見られる。思考・判断・表現の観点では知識理解との相関があり能力にも大きな差がでている。	学習能力をつけるために、ドリル、ワークシート等で基礎的・基本的な知識と技能の定着を図る。定性的思考から定量的思考の必要性を考察させ、対話的学習の機会を増やし思考力・判断力・表現力、主体性の育成を目指す。最終的には教え合い学習（グループワーク）を通して、各自が学習の過程にも意識をもてるようにする。
音楽	歌唱や鑑賞といった学習活動に対して、得手不得手の個人差がある。鑑賞では、知覚（音楽の特徴）と感受（感じたこと）との結びつきについて、考えていくことに課題がある。	歌唱の学習活動では、生徒の段階に合わせた選曲を行い、意欲的に取り組めるようにする。鑑賞の学習活動では、注目する音楽の要素を厳選し、どのような音楽の特徴があるか知覚しやすいようにする。
美術	座学は落ち着いて取り組めているが、作品制作の時間に目的意識が低く、落ち着いて取り組めない様子が見られた。	授業ごとに達成すべき目標を明確にし、配布プリントに手順を示し、口頭での指示に頼らなくても生徒が主体的に授業に取り組めるよう改善していく。
保健体育	活発な活動をする生徒が多く授業には積極的に取り組んでいる。一方で、基本的な知識・技能・体力の個人差が見られる。競技によっては集中が続かず参加しない生徒がいる。	授業をスモールステップで行い、全体の技能を上げていく。習熟度別で課題を確認し、主体的に自己の課題に取り組める環境づくりを行う。また、学習カードを用いて、自己評価を毎回行うことで理解度の確認を行う。規律を守らせ、集団としての力を育成していく。
技術・家庭	ものをいろいろな方向から見たり考えたりする力や工夫する力が十分ではないため、実際に作図や設計をさせると、個人差が大きい。ものを作る体験が乏しく、基本的な道具や工具、機械を実際に使ったことがないので、経験や体験が不足している生徒が多い。（技術）	ワークシートなどを利用し、学習や復習を繰り返し行う。導入題材で基本的な製作体験をさせ、その後本題材を行い、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れる。（技術） 学習したことを家庭で実践し、実習の体験を多くする。また、それをワークシートに記入し、意欲的に進めていけ

	学習内容に興味・関心はあるが、日常生活の中での体験が乏しいことや、実習が少ないことで、基礎的な知識・技能の定着について個人差が大きい。（家庭）	るようにする。（家庭）
外国語	既に小学校の外国語活動の段階で苦手意識のある生徒がおり、地道に取り組み自信をつけることが必要と感じている。全体的に反復を嫌がる傾向が強い。	基礎学力を定着させるために、ドリル・ワークに計画的に取り組ませる。また現在行っている単元テストの他に、授業中に適宜単語テストの実施をする。